

室神山

学校便り
平成30年2月15日号
江津市立江津東小学校長 安食 徹

サケの学習（4年生）

1月16日（火）に4年生が、サケについての学習をしました。これまでにサケの稚魚の飼育に取り組んできて、沢山の赤ちゃんのサケが育っています。今年で12回目となるサケの放流会【3月10日（土）14時から】に向けて、体験的な学習を重ねていきます。島根県内でもこの体験ができる小学生は少ないと思います。今年度の学習発表会ではこの学習を題材にしたものを発表しました。しっかりサケを育て、元気なサケを放流できるように頑張ってください。



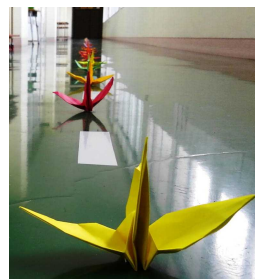
学習発表会



1月27日（土）に学習発表会を開催しました。1月中旬からインフルエンザが流行するなど児童の欠席が相次ぎ、大変開会を心配しておりましたが、発表会当日は欠席者0でした。非常に寒い日でしたが、全校児童が残らず参加でき、元気に発表をすることができました。保護者の方々、地域の方々には多数おいでいただき、発表会を盛り上げて頂きましたこと、本当に感謝です。子どもたちの一生懸命な姿をご覧頂き、温かく見守りご声援をかけて頂きましたこと、子どもたちの胸に強く焼き付いたことだろうと思います。

折り鶴作戦（環境委員会）

1月31日（水）から、環境委員会が『折り鶴作戦』という運動を始めました。これは廊下の中央に折り鶴を並べ、右側通行を促すというものです。もともとは石川県の羽咋（はくい）小学校の児童会が始めて、全国的に広がりを見せている取組ですが、環境委員会がオリジナリティを発揮して、江津東小バージョンを工夫し、一生懸命に取り組んでいます。紙でできた折り鶴ですので、少し足が当たっても、形が崩れてしまいます。折り鶴が長持ちするように、全校で気をつけて安全に歩行してほしいと思います。



1日入学

2月2日（金）に来年度の新生と保護者を迎えて、一日入学を行いました。新生は1年生との交流活動を楽しんでいました。1年生も張り切って発表などをしていました。来年度、新生が元気に入学してくれることを、全校のみんなですみやかにしています。

全校朝礼で話したこと

2月6日（火）の全校朝礼の表彰の後、次のような内容を話しました。

さっき表彰しましたが、表彰の意味は結果だけを誉めているではありません。「あなたの中に優れた力があります。それをしっかり伸ばしてください」という応援の気持ちが込められています。皆さんはそれぞれに、自分の人生を切り拓いてゆくすごい力を持っているのです。その力を発揮するための大切な心構えがあります。それは「主人公の道歩くぞ!」という心構えです。日本ですから右側通行ということにします。どうか人生の主人公になってください。

その反対の左側には被害者の道があります。被害者の道歩く人は、すぐに「かわいそう攻撃」（私が名付けました。不平不満や不幸自慢などのこと）をします。これは「私ってかわいそうでしょう…」とアピールして、他人から同情を優しさを得ようとする方法です。他人の善意や助けを利用して、自分を元気づけようとするやり方です。それを依存と呼びます。子どもの頃はこの方法をよくやるし、依存して当たり前ですが、成長するにつれて自立していかなければなりません。大人になっても直らず、この方法をやりすぎてしまうと、沢山人に迷惑をかけてしまいます。ひどくなると被害者の道さえも踏み外し、人の悪口ばかり言ったり、いじめたりする加害者になってしまいます。

さて、物差しです。どうすれば自分が主人公の道歩いているとわかるのでしょうか。ゲーテという人が、『自分で機嫌を直せないのは、大人ではない』と言っています。自分で自分の機嫌を直せるようになってきたと感じたら、自分で自分を元気づけられるようになってきたと感じたら、主人公の道、自立への道を進んでいる証拠だと思います。

↓職員室劇団による劇

ロールプレイ（天使と悪魔）

★悪魔の声：自他を否定、不平不満、原因探し、犯人探し、恨み、人間不信、報復感情

☆天使の声：自他を肯定、感謝、意味づけ、自尊感情、人の痛みがわかる、赦し、寛容

飼ってた犬が死んでしまった場合

★家族だって悪いよ。みんな具合が悪いのを知ってたのに、忙しいからといって、世話をあなたばかりに押し付けて。もう気がおさまるまで反抗してやれよ。

★だいたい、妹が拾ってきたからいけないんだ。もともと犬がいなければ、こんな悲しい思いをしなくてすんだはずだ。これから当分いじめてやれよ。

★でも結局ちゃんと世話をしなかったのはお前だ。お前が悪いんだ。お前は無責任だ。全部お前のせいだ。もう動物を飼う資格なんてないよ。だめな奴だ。

☆悲しいのは、あなただけじゃないよ。家族みんな悲しみを抱えながら、明るくがんばっているんだよ。昨日はお母さんや妹が泣いているのを、あなたも見たでしょう。

☆死んでしまったのは、とっても悲しいけど、今まで楽しい思い出が沢山できたでしょう。友達とケンカしたときも、犬と遊んで元気になったじゃない。妹とも一緒にすごく楽しく遊んだでしょう。そのことに感謝しなよ。

☆犬は不思議に心をわかってくれたよね。あなたも大好きだったよね。何かを大好きになる

気持ちを教えてくれたのよ。それって、犬からの素敵なプレゼントだよ。あなたが元気に明るく生きてくれたら、犬も喜んでくれるはずだよ。感謝して、はやく笑顔になろうよ。

友達とケンカしてしまった場合

★絶対あっちが悪いよ。もう口も聞きたくないだろ。絶交しちゃえ。別に友達はいっただけじゃないだろ。

★だいたいあいつは保育園の時から、嫌なところがあった。お前のことをばかにしてるんだ。今度、何か仕返ししてやれよ。

★でも、結局ばかにされるお前が悪いんだ。お前に力がないからだ。つまらない人間だよ。どうせいじめ返されるから、何もしないでいた方がいいんじゃないか？

★本当に悪いのは相手だけなの？あなたも気づかないうちに相手を傷つけていることがあるんじゃないの？冷静に考えてみようよ。

★仕返ししたい、恨みたいという気持ちはわかるけど、状況が悪くなるだけだよ。全部自分に悪い形で返ってくるだけだよ。がんばって赦す方を選ぼうよ。人を赦す力は心を強くするために一番大切な力だと思うよ。

★自分にも非があるって気づいたんだね。相手を赦す気持ちになったんだね。すごいよ。あなたのことを誇らしく思える。明日こっちから謝ってみようよ。

でも皆さんはまだ子どもで、成長の途中です。一人だけでがんばらなくてもいいのです。苦しいときや悩みがあるときは、どんどん友達や先生、スクールカウンセラー、家族や知り合いに相談してみましょう。その経験が人を信頼する力となり、自分の中の天使を育ててくれるのです。だから友達が悲しんでいたり相談を受けたりしたら、主人公の道の側から、天使として声をかけてあげてください。気持ちをわかろうとしてあげてください。「大丈夫だよ、～と考えてごらんよ」と元気づけてあげてください。一緒に感謝の種探しをしてあげてください。そして友達からアドバイスを受けたら、素直に考えてみてください。そうすれば、きっと明るい気持ちになり、感謝の気持ちも湧いてくると思います。決して被害者の道（ひどくなると加害者の道になってしまいます）の側から、悪魔として声をかけることはしないでください。原因探し、責任転嫁ばかりしていると結局自己嫌悪になってしまいます。自分を好きになれなくなります。悪口、差別、いじめなどももちろんやめてください。自分を尊敬できなくなります。不平不満、愚痴などに囚われていると、自分の中の悪魔を育ててしまいます。天使の方を育ててください。

皆さんは一人ひとりが素晴らしい力を持っています。自分の人生を自分で切り拓いていける力です。それを持っていない人は、この世に生まれてきていないと思います。そのことに気づいた瞬間から、主人公の道を歩き出すことになります。かわいそう攻撃はやめましょう。ひがんだり、いじけたりするのはやめましょう。皆さんは東っ子です。『人に優しくできる子、頑張って学ぶ子、芯が強たくましい子』です。ひがみっ子や皮肉っ子、ひねくれっ子、卑劣っ子、ひどいことを言う子、そんな子どもにはならないでください。皆さんは人生の被害者ではありません。人生の主人公です。

今、環境委員会が廊下の右側をきちんと歩く運動をしていますね。左側通行はやめましょう。体も心もきちんと右側通行ができるように、折り鶴がつぶれないように頑張ってください。

本郷由美子先生の講演会

2月9日（金）グリーンケアワーカー、精神対話士の本郷由美子グリーンパートナー歩み代表をお迎えし、『いのちの重さを見つめ続けた16年～愛（かな）しみとともに生きる～』の演題で、ご講演を頂きました。忙しい中、他校や他機関、保護者や地域の方にも参加して頂き、大変ありがとうございました。

内容はとても深いもので、凄惨な事件の体験者だからこそ語り得るものでした。命の大切さ、「当たり前」の有り難さなど、様々な学びを得ましたが、容易に言葉にできないほど、心揺さぶられたというのが正直なところ。今後の学校教育に活かしていきたいと思えます。以下に感想をいくつか紹介



します。

○心からの言葉、メッセージをありがとうございます。今感じているこの気持ちや感覚を言葉にすることは、とても難しいですが、「忘れない」ようにしようと思います。子どもたちを、周りの人を守りたいです。それから私も、ちゃんと最後まで生きようと思います。

○人ごとのように捉えている自身の危機管理意識の反省と共に、人の心に寄り添う大切さ、難しさ、子どもへの接し方等、様々なことを考え直すきっかけにもなりました。被害者の親でもある本郷先生の気持ちが伝わってきて、涙が止まりませんでした。中高生くらいの子どもたちにも、いつか聞いてもらいたいです。

○本当に悲嘆の中から、このように命の活動につなげておられる姿に、まずは感動しました。娘さんを心から愛しておられるからこそその言葉に表せないほどの大きな喪失感。それを沢山の人に支えられての今日。人と人とのつながり。失ったものが大きいほどそのつながりが必要で、それがあからこの『恩送り』。人ってすごいなと思いました。魂との出会い、ありがとうございます。

○今ある命について見つめる時間となりました。言いようのない心の揺れを感じています。頂いた資料を読み返しながら、今日のお話を振り返りたいと思います。当たり前大切さ、つながり、感謝、深いお話を聞くことができ、幸せに思いました。ありがとうございます。

○まさに生きていくことを考えた時間でした。思いを寄せ、共に歩むことを続けていこうと思いました。

○一時一時の時間を意識して歩んでいきたいと、改心した気持ちでいっぱいになりました。不平不満を言わず、常に前向きに進み、周りの人たちを見て差し上げるゆとりを持ちたいです。自分ならどう思うか、どうしてほしいかを考えながら、また、自分がしてほしいと思うことは、他の人にもしてあげるように、優しい心を育てていきたいです。ありがとうございます。元気を出して生きていきます。

○大切な人が奪われる悲しみというのは、どれほどのものなのか、想像してもしきれないですが、自分が過去の小さないくつかの悲しみを今ではもう思い出せないほど、当たり前で生きられているのは、周りの人の沢山の支えがあるからこそなのだと改めて実感しました。

○自分だったらと考えるととてもそこまで前向きになれないと思ってしまうが、自分の中にある生きようとする力を信じたいと思った。その力を引き出すためには、自分一人ではだめなこともよく分かり、周りにいる人たちに支えられている自分を感じることができたし、より一層感謝の気持ちが強くなった。当たりの毎を送れていることを日々幸せと噛みしめ、感謝の気持ちを忘れずにいたい。また人を支えられる自分でもありたいと思う。

○どんな言葉も陳腐になってしまう感じで、感想がなかなか書けません。しかし、「生きる」「命の大切さ」「寄り添う」「感謝」などの言葉が、今まで自分が思っていた感じより、深いものがありました。お話を聞くことができ、本当によかったです。この余韻を噛みしめてみたいと思います。

○やはり、体験を実際にされた方の話を聞き、心が動かされました。「悲しみ」を自分の中で折り合いをつけていく。そこにやはり他者の力（寄り添うこと）が大切だと感じました。「心は成長し続ける」という言葉に勇気をもらい、希望を抱くことができました。本郷さんの貴重な経験を聞かせていただき、本当に良かったと思います。ありがとうございます。

本の紹介

「イルティシュ号乗組員救援史」を絵本にして語り継ぐ実行委員会より、『こっちこーい こっちこーい』という絵本を寄贈して頂きました。読んでみましたが、とても読みやすく内容もよくわかる本でした。幅広い学年で活用できそうです。江津市の貴重な歴史を語り継ぐためにも、今後、平和学習や歴史学習等に積極的に活用していきたいと思います。本当にありがとうございます。

